

子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト

【山口情報芸術センター[YCAM]】



目的 目標

山口情報芸術センター[YCAM]は研究開発チームYCAM InterLabを中心に、アーティストとのコラボレーションを通じて、同時代のテクノロジーを活用した作品制作と、さらには作品創作で培われた知識や技術を活用して、ワークショップやメディアリテラシー教育の授業など市民・学校と連携した事業を実施している。YCAMのこうした特徴を活かしながら、振付家・ダンサーの振子びじん(演出)、作家の斧田小夜(原作)らとともに子どもたちに向けたパフォーマンス作品を創作し、山口市内の小学校、さらには劇場での巡回公演を実施し、今後の未来を見据えた国際的に活躍する人材を幅広く育成する。また、内部クリエイターとして創作に参加するYCAMのスタッフにとってはオリジナル作品の国際巡回を実現するためのプロデュースや、舞台技術の面から成長する機会とし、こうした人材育成を通じて、YCAMの国際的な創作・発信拠点としての機能も高めていく。

概要

育成対象者である振子氏、斧田氏はそれぞれ国内で高い評価を受けるクリエイターであり、彼らが国際的にも活躍する機会として本事業を位置付ける。対象年齢10歳以上を想定した子ども向けパフォーマンス作品の創作と発表を実施。舞台は近未来の小学校。AIやロボットたちが、教室の環境を管理したり、観客である子どもたちと一緒に学ぶ授業が行われる、没入体験型のパフォーマンスを予定。小学校の教室でも上演できる仕様を目指し、使用機材や舞台美術、随行人数の軽量化に挑む。実際にAIやロボットといった技術を応用した演出だけでなく、子どもたちにAIやロボットとどう付き合っていくのかという問いを投げかける、オリジナリティにあふれた作品を創作する。

3年目までの取組

1年目	2年目	3年目
事例調査 執筆開始	作品制作 国内公演実施	小学校でのワーク・ イン・プログレス発表

- 創作に関わるクリエイターたちは、1～2年目において、子ども向け作品、AI技術やロボティクスと教育などのトピックについてのリサーチを行い、使用技術についての研修や基礎研究を行う。
- 3年目以降での学校公演および4、5年目での海外公演を目指して、2年目に実施する予定の国内公演でのアピール、小学校との連携を綿密に行っていく。

5年目までの取組

4年目	5年目
国内・海外 公演準備	海外公演

- 4年目は、海外巡回の準備として、海外アドバイザーとの連携や巡回先への売り込みを行う。
- 5年目には海外公演を実施し、本事業の成果をアーカイブ等で発信する。



石若駿 + YCAM パフォーマンス作品
「Echoes for unknown egos—発現しあう響きたち」
撮影：谷康弘

中核となるクリエイター

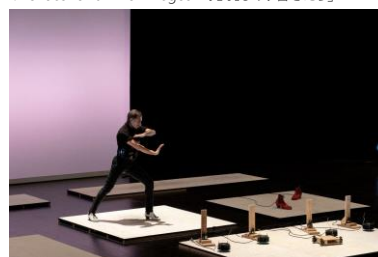
構成・演出 振子びじん

ダンサー・振付家、neji&co.主宰。
身体の細かな動きや消えゆく身振りに
焦点を当て、独自のダンス作品を制
作している。



写真：前谷開

原作 斧田小夜



イスラエル・ガルバン + YCAM
ダンス作品「Israel & イスラエル」
撮影：守屋友樹

国内公演【計7回以上を予定】

- 劇場公演
2025年 国内公演7公演以上
- 学校への取り組み
2026年 ワーク・イン・プログレス &
ディスカッション 3校6回

海外公演【計1回以上】

- 海外プレゼンテーション・公演
2025～2028年(予定)
韓国・台湾・香港など

成果目標（見込）

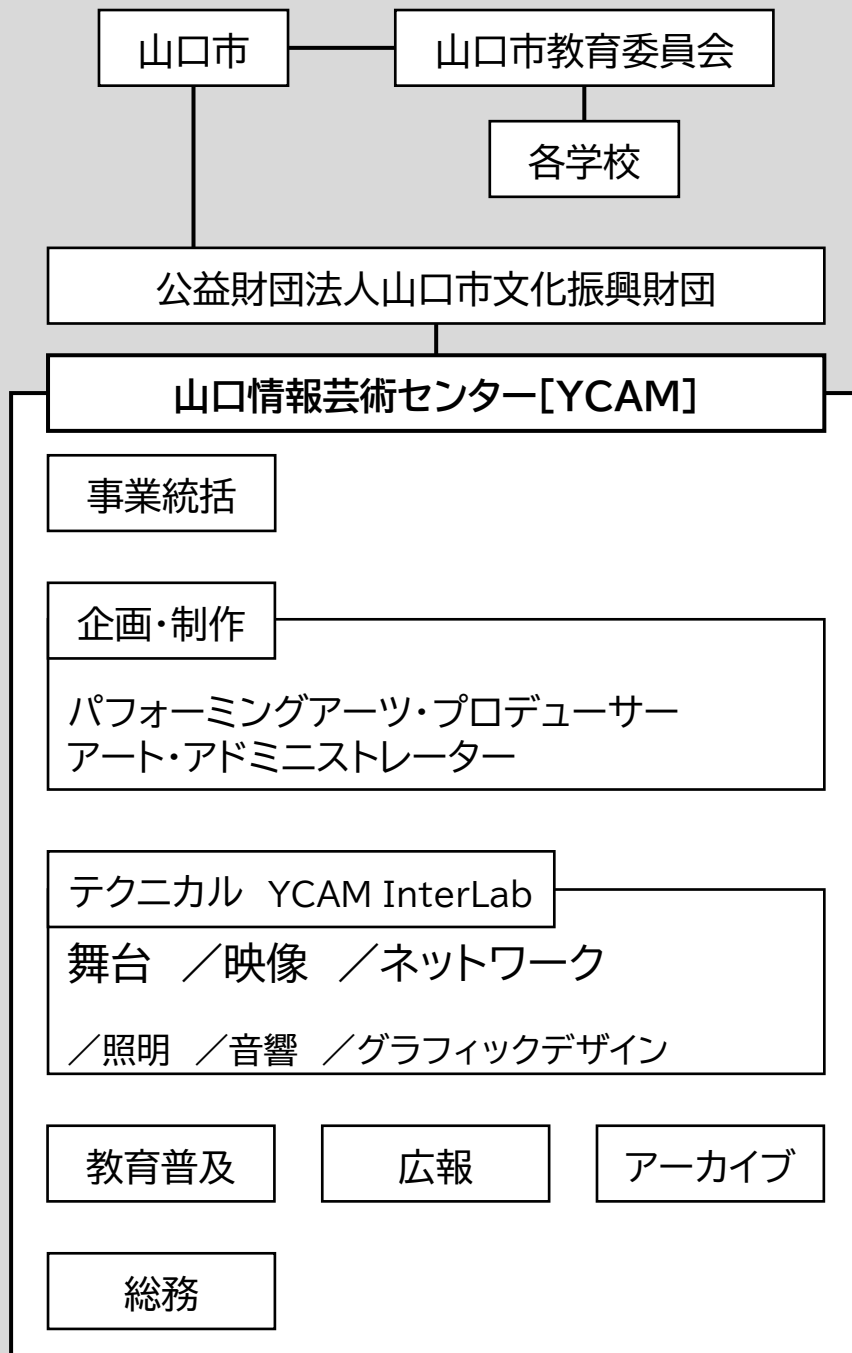
目標値

文化施設の公演活動に対す る専門誌・専門家・批評家 等による評価数	15件
公演多言語・ バリアフリー対応数	5言語 以上
デジタルコンテンツの閲覧・ 再生数の合計	10,000件
人材育成実施数（研修数等）	61回

育成対象者：8名

振子びじん / 構成・演出
斧田小夜 / 原作
山口情報芸術センター[YCAM] /
企画・制作、技術スタッフ等 6名

体制図



クリエイター

ダンサー・振付家 : 振子ぴじん

コラボレーター

原作 : 斧田小夜
ロボット制御システム開発
AI・デバイス制御
音楽

指導者

- ・作品全体の指導
- ・海外巡回の指導
- ・海外での作品の翻訳における指導
- ・テクニカル面での指導

技術協力

アーカイブ協力

地域・外部機関

台湾・韓国・香港などの劇場・フェスティバル機関
技術協賛
山口市の支援団体
国内展開協力団体